

平成 30 年 10 月 3 日

④ 生徒の認識が不足しているところがある。

平成 30 年度 1 学期「第一回生徒による授業評価」のまとめ

1 学期の教科別「第一回生徒による授業評価」について、次の通り報告します。

1. 各教科における協議内容

- ① 今年度取り組んだことがら（※下記）のうち、成果が表れていると思える点
- ② 今年度取り組んだことがら（※下記）のうち、課題が残されたと思える点
- ③ ①、②を踏まえて今後取り組むべきことがら
- ④ その他、この集計結果から読み取っておくべきこと

※「学習意欲を喚起する授業を実現するための工夫」「基礎的な知識や技能を活用して思考力・判断力を育む授業」を実現するための工夫等の具体です。

国語

- ① 「教材が工夫されるなどして取り組みやすい授業である」「説明の仕方が丁寧で、分かりやすい授業である」が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」合わせて、9 割近くにのぼっている。生徒の学習状況に合わせた授業実践を行い、生徒の学習意欲を喚起することに一定の成果を上げていることが読み取れる。
- ② 「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」が「あまり当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」合わせて 2 割を越えていた。
- ③ 本校生徒の実態や興味・関心に基づき、話し合いや意見交換を通して、思考力・判断力を育む機会を作っていきたい。また、引き続き生徒の視点や学習状況に合わせた授業を行い、学習意欲を喚起していきたい。
- ④ 生徒自身の取組状況に関する項目が、自己評価が高く、教員の理解と著しくかけ離れている。

地歴・公民

- ① 生徒一人一人が授業に集中できる教材にすべく、創意工夫を施した。
（地歴）生徒の「わかった、できた」「理解できている」の項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が大きい結果が得られた。
- ② 思考力・判断力に基づく知識の定着が不足している。
- ③ 基礎的な知識や技能の定着を図るために、教材の工夫や授業規律を徹底する。
- ④ 生徒は、わかる授業、充実した授業時間を望んでいる。

数学

- ① マストレを実施した。
やる事を事前に書くことにより生徒が見通しのつきやすい展開になっている。
毎回の小テストの実施。
- ② 話し合いの機会が少ない。
授業規律を守っていると思っている生徒が多い。
- ③ 話し合いの機会が少ないので、数Ⅲと数 B から実施していく。
学力の底上げが必要である。

理科

- ① 演習問題を解かせる際、終わった生徒の解答を確認して、その場で○をつける。○がつかなかった生徒はさらに問題に取り組み、学習意欲の向上が見られた。
開始 10 分で穴埋め形式のドリルを行う。前の時間の復習ができる。静かな状態が作れ、そのあと授業に入りやすい。
授業規律の面で効果があった。
毎時間、「本時の学習で分かったこと、新たに考えたこと、疑問に思ったこと」などを自由記述させて回収した。板書事項や学習内容を自分の言葉でまとめ直し、表現する力、考える力が少しずつ身についてきた。
- ② 生徒の知識として積み上げができていないか、課題である。
毎回記入する内容の経時的な変容や傾向を個別に分析することができていないので、それぞれの思考力などが単元を通じてどのように進化したかが把握できていない。
- ③ 年間を通じて継続して、生徒の様子を把握していく。
問いかけに対してその場でどのように回答をしたのかだけでなく、単元レベルの一定期間を通じた個々の変容を読み取る手立てを導入する。
- ④ 生徒自身の取組状況や理解度の結果を見ると、多くの生徒が取組がよく、理解していることになる。真面目に回答している生徒もいると思われるが、今後もデータの分析を行っていく。
話し合う機会が少ないとのデータがあるが、効果的な単元でそうした機会をつくりたい。

保健体育

- ① 各種目において、基礎を前半で行ってからグループワークに入っていくことで、より協力する姿勢や、思考力・判断力を育むことができていないか。
小さな成功体験を積み重ねること、そこで適切な声掛けを行うこと、また学習ノートへのコメント等を通して学習意欲の喚起や自己肯定感を育むことができた。
- ② 保健では講義的な内容が多くなってしまった。
- ③ 体育では、引き続き基礎的な部分とグループワークの効果的な割合を考えて行っていく。
保健では、授業の進め方を工夫することで積極的に取り組む姿勢がみられるようになってきたので、その取り組みが定着していくようにする。

芸術

- ① 「授業内容」についての 4 項目について、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」が 8 割を越えているので、工夫の成果が表れているのではないか。
- ② 学習に気持ちの向かない生徒への対応が必要である。
- ③ 環境整備、内容の充実、生徒へのアプローチを続ける。

英語

- ① task を用意し、「自ら考える」ワークシートを使用した。
- ② 生徒同士で話し合ったり、発表したりする場が少ない。
- ③ 講義タイプではなく、intake と output をしっかり授業の中で行えるようにする。
- ④ 生徒の学習理解がまだ不十分である。

家庭

- ① 「学習意欲を喚起するための授業の工夫」として、分かりやすいプリント作りや実践的な授業展開をしているため、8割の生徒が授業中「わかった」「できた」と思うことがあると回答している。
- ② 1学年では実習がないため、「基礎的な知識や技能を活用して思考力・判断力を育む授業」としては、課題が残る。
- ③ 思考力・判断力を養うため、1学期に学んだ内容も含めて、知識や技能を活かせる機会を設ける。
- ④ 7割以上の生徒が、授業内容・方法について「かなり当てはまる」と「ほぼ当てはまる」と回答しているため、今後も引き続き生徒の理解に応じた授業を実践していく。

情報

- ① 「教材が工夫されるなどして取り組みやすい授業である」「説明の仕方が丁寧で、分かりやすい授業である」において当てはまる割合が高く、生徒から学習内容・指導方法について一定の評価を得ている。
- ② 自分の意見や考え方を整理する機会や生徒同士で話し合う機会や意見を発表する機会が少ない。生徒自身が、授業でわからないことがあったら分かろうとする努力が不十分と感じている。
- ③ 決められたことをするだけでなく、自分で考えたり、工夫したりする機会やできるだけ生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会を設定するとともに、生徒同士で分かろうとする雰囲気づくりをする。
- ④ 生徒自身の取り組み状況の結果については、意欲的な生徒とそうでない生徒ではっきり分かれている。すべての生徒が意欲的に取り組めるよう工夫をしていきたい。

2. 1を踏まえ研究開発グループでまとめた2学期に向けた成果と課題

・複数の教科で共通した成果

生徒の状況にあわせた教材の工夫や学習の進め方の工夫などを行い、生徒が理解しやすい授業を展開できている。

・複数の教科で共通した改善点

グループワークや発表、生徒同士の話し合いなどを取り入れた授業を展開していくこと。